

ホール解体設計と用地購入を削減する修正案を可決

3月25日、市議会本議が開催され、令和3年度一般会計予算案で3件の修正案が提出されました。いずれも中津江福祉保健施設移転整備事業を含むもので、党市議団は独自の予算修正案が否決されたので、ホール解体撤去設計委託料と用地購入費を削減する教育福祉委員会の修正案に賛成し、多数で可決しました。

中津江・上津江地区の福祉

保健施設が土砂災害特別警戒区域等にあるため、市は移転統合など整備の方針を2年前から地元と協議を進めてきました。中津江保育園と上津江の子ども園の移転統合

は、両地区の保護者会と振興協議会が、中津江ホール敷地内の移転統合に同意し、実施設計の予算に議会でも反対はありません。

西地区にある高齢者生活福祉センターの移転統合は、上津江から強い反対の意見が出され合意はできていません。

中津江では昨年7月の豪雨で施設が被災したため、中津江ホール敷地内の移転について基本的に合意しています。市は保育と高齢者の連携施設をホール敷地内に造れば、狭くなるのでホールを解体撤去するとしています。しかし、中



解体案が否決された200人は入れる中津江ホール(ホームページより)

津江住民からは「別に100人程度の住民が集える施設を強く要望」していますが、今市はその考えはありません。予算で関係する2432万円の内容は高齢者施設の実設計とホール解体実施設計、用地購入費です。採決にあたり党市議団は、予算案に対し前週「明るい日田」で記載の通り減額(マイナバーカード推進、部落解放同盟日田市連絡協議会補助金、中津江地区高齢者福祉施設移転事業)と増額(長寿祝品贈呈)の修正案を提案。しかし否決されましたので、他会派提出の全額修正案よりましな修正案として、教育福祉委員会のホール解体実施設計委託料160万6千円と用地購入費770万6千円の減額修正案に賛成し、12対8の多数で可決されました。

中津江地区福祉保健施設移転整備事業 地区住民との協議不十分

介護保険も後期医療も負担増に反対

介護保険の保険料値上げの条例に党市議団は反対しました。保険料の引き下げに基金2億6千万円の内1億5千万円を活用しましたが、1億1千万円も残っています。そのため基準額で年間2200円もの値上げです。第1期と比べると約2倍の保険料で負担軽減に全額活用すべきです。特別会計予算は、保険料収入は値上げもあつて416万5千円増加しています。一方要支援・要介護者は増加して

いるものの、介護サービス利用者には前年度より3.3%減の81.9%となつて利用控えが広がっています。基金を残す理由に新型コロナウイルスで重症化し給付費が増えるためと言いまし

令和3年度の後期高齢者医療特別会計予算は、保険料収入が前年度より152万4千円と増加しています。これは被保険者の増もありませんが、国が保険料の軽減の特例を段階的に廃止したために、増額となり負担増となります。

第8期(2021年4月~2024年3月)の介護保険料 年間2200円の値上